



湯本町の水道布設

入山の設計で申請

工費十九萬六千二百圓余

五、六兩年度の繼續工事

石城郡湯本町では井泉水の對し縣發給所から左記の異
酒湯で飲料水に窮し水道布設通知があつた。
設を計畫して認可申請中であるが同町では前に入山採
炭に於て企畫せる水道から
給水を受ける

心算で あつた夫が

實現しない爲め同町独自の
水道を計畫されたものであ
る關係から前記入山採炭に
設計された好間川から分流
する大瀧江筋に取入口を設
くる

水道布

策となし此程兩者の連署を
以て縣に認可申請を出した
が工費は十九萬六千二百圓
で五、六兩年度繼續の豫定
である。

平穀檢

吏員異動

佐藤吏員は
安達針道へ
平穀物検査支所では産米檢
査の稱譽に準備し出張所主
任其他目下配置中であるが
廿八日附を以て同所吏員に
使用し健康保險協手當の

國府縣道に

奉仕作業

双葉郡の龍
田消防組で
双葉郡龍田村の消防組では
此程の幹部會に於て組員二
百余名を毎日一名づつ、奉仕
作業を以て村内國府縣道の
巡回小修理を行ふことに決
し廿九日組頭小松幹夫氏平
土木監督所に小林所長を訪
ね縣に對する正式手續其他
に就き打合せをなした。

高坂炭礦で

購買書偽造

新潟縣東蒲原郡津川町生れ
石城郡内郷村宮の澤居住高
坂鐵坑夫伊藤市太郎(四)は
八月十六日二女みつ(二)を
使用し健康保險協手當の

三井休山の失職者

石城に六百名散在

平町職業紹介所の手を経て
就職せる者僅かに六十四名
石城郡磐崎村三井炭礦の休
山による失業者一千余名は
既報の如く大部分就職難に
陥り平町職業紹介所の手によ
つて九州及び北海道方面に
轉山せらるもの廿九日
までに五十九名この外九州
山野炭礦に四名、權太に一
名の決定を合せて六十四名
に過ぎず退山後湯本町に
假住するもの百廿名
内郷村方面に散在するもの
三百五十名、病氣其他の家
事都合で尚ほ同山に残留し
後片付に従事なし居るもの
百廿名で全部の

前科五犯の

賊逮捕

廿八日平署に
栃木縣那須郡向田村神長生
れ目下住所不定前科五犯思
田矢四郎(三)は栃木、茨城
東京、福島の一府三縣を股
にかけて數千圓の現金専門窃
盗を働きたる其の筋の嚴密申で
あつたが本月十九日石城郡
小川村下小川根本吉松方か
ら現金四百圓を窃盜して足
がつき二十八日午後一時郡
内好間村地内に於て平署に
逮捕取調中である。

古物商の

贓物故買

石城郡好間村古河炭礦元坑
夫宮城縣生野小谷地村生
れ高橋秀雄(三)は過般同礦
と職首された際同坑の砲金
に銅線二十余貫價格三十
圓余を窃取し處分に困つて
のを平町好間古物商柳内結
構であり新しい事も知ら

蘭市況

四倉蘭市場二十八日の取引
高は一七〇七貫で累計五五
四一貫相場は左の如し
▲最高二圓一錢、最低
一圓四八錢、買割一圓七
〇錢

平土木監督所管内

災害復舊工事落札

橋梁五ツ道路二ヶ所
一萬五千七百八十圓余
平土木監督所では管内に於
ける昨年度の災害復舊工
事に對し廿八日競争入札に
附したが落札は左記の如く
何れも十日以内に着工の祭
で工期は三月以内である
尚ほ同日入札の内石城郡三
坂、平線に於ける道路復舊
約二千圓は豫算超過の爲線
延べられた。

天の川の

お話(二)

近年日本に於ける一般の行
事は兎角西洋のことばかり
を真似て來るの特色ある良
事も省みられぬ悪い
せがいつて來たが昔さん
の中にクリスマスを知つて
ゐて七夕祭を知らぬ人がな
いでせうか、西洋のことも
降れば「かさ」が幾萬匹

震災記念に

酒なしデー

平町では來九月一日に於け
る大震災七週年を記念し當
時の慘憺たる追憶を新たに
する爲め各家庭に於て黙禱
するものその他の催しを奨
めてゐるが更に緊縮せしむ
る所似に於て酒なしデーを
行ふ。

川の中から

自轉車

捨得して届出
石城郡上小川村日立電力發
電所員根本應三(三)は去二十
七日午後三時頃同村夏井川
岸に於て砂中に埋もれてゐ
る自轉車を発見掘返して平
署に届出た。

榮轉せる佐

藤氏の送別

平町役場は過般の九州並に
分筋木原久の濱間大久村
地内田中橋二六五〇圓
久の濱地内鹿島橋三四〇圓
〇圓、筒木原久の濱線岸
有の大暴風雨災害に關して
觀音橋一七四〇圓、同線
二十八日其の筋からの通牒平穀物検査所吏員佐藤留七
ねばならぬが日本人が昔か
らやつてゐる良いことを知
るべきで、七月七日の夜牽牛
とまた織女星は大變美しい
供物を添へてお祈りする
お祭ではあるが日本でも
始めたのも随分昔のことで
孝謙天皇の天平時代からと
云ふから千二百年も前のこ
とです、七月七日の夜牽牛
あつたのは徳川時代だと云
はれてますが其頃の同祭事
は可也大げさだつた様に書
物にも遺されてゐます、又

廉價譲りたし

目下使用中

平町若松醫院
大町

出生と死亡

出生
▲出生平町田町二十六増
子富治三男秀雄二十日
平町應匠町六吉渡長之介
長女ちよ子十九日
▲死亡平町立町八佐川熊
五郎(七)二十八日

改革概論 (130)

参考資料

私とはかく威武も屈する能はず、富貴も妬する能はざる底の剛毅的精神は養父より、不幸なる人を見ては、一掬同情の涙を禁ずる能はざる底の、柔慈的精神は母よりうけたもので偉大なる母の母性愛を以て養父の父性愛を融合調和された父母両性共同愛の家庭教育をうけ而して其家庭は女塾的であり、村からは御館様(或は親方様か)と稱せられ一言一行模範的行動をとらざるを得ない有様であつた爲に不良少年ともならず今日あるを得たこと、深く先祖や両親に感謝して居るのであります。

母の針子教育は私の教育に對する研究に有力なる資料を興へてくれたものでありと思ひますので茲に其概観を申上げて見やうと思ひます。

母の針子教育は明治十五年頃祖母父母も父も引つゞき歿して母と姉と私の三人となり、家も廣く、淋しくもあると云ふ處から頼まるゝがまゝに、近所の娘達を預つたのが始まりで大正三年に亡くなるまで殆んど三十年に渉り幾多の針子を預かつたのであります。今日の學校の様に規則もなく大抵十五六歳位のもの其母親が送つて来て一何もわから

ないものでありますからよろしく御願申します」と云ふ一言の挨拶が今日の入学式であり、手打のそば、餅野菜、駄菓子等が束修であり勿論無月謝で母をお母様をお父様と呼び農繁期には休み、農閑期には日曜も祭日もなく裁縫用具として尺、はさみ、針刺位のもので材料は農家の仕事着から晴着まで何でも有り合せの物を持参し母が自分のぬい物の針を進めながら女今川や女大學の講釋、世間話から出發した女子處世訓農村の主婦としての修養訓又其合間に父の例の氣質を以て人々に對する對話のうちから種々の教訓が興へられ掃除、炊事、漬物等は實地に教へられ親戚、有志家村の人々も種々雑多なる來客の接待給仕等にも使はれると云ふ有様で入門後嫁入までの四五年の間は結構な通つ實際的地方的の家事裁縫が出來、常識が養はれ自分の婚禮服をぬい上げる程度で一段落がついたのであります。

夏浴物衣地特賣

伊関吳服店

平町 金子重次

内外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

天瑞院新盆に相當り候

共提灯其他御贈與乍

勝手御辭退申上度候間

悪しからず御承引被下

度願上候

平町 金子重次

松月堂

二十八日發行某新聞紙上に恰も當校が經營困難なる爲め教員三名を誡首したる事に端を發し全生徒間に不安の空氣漲りつゝあるかの如き記事掲載相成候處當校に於ては教員を誡首したる等の事實無之隨つて生徒の動搖等絶對無之候間乍余事御省念被成下度以紙上謹告候也

八月二十五日

福島縣 平町 藤田女學校

舊曆 御盆佛具賣出し

御位牌、御佛壇
佛膳、佛器具一式

新盆への贈物に佛器具を御勸め致します

平町三丁目
電話三五九番

丸 ぼん

表代城磨 酒銘

美味経済 味の妙

山崎名産 磨酒

電話三五九番

優良之格 質士高之

和洋雜貨 山崎名産

山崎名産 磨酒

諸毒下シの大妙藥

安流丸

持石山野遠東藥房

亡妻新盆の處時節 病提灯其他の供物一切 乍失禮御辭退申上候

平町田町

市原卯太郎

安價に 迅速に 町噂に 親切に

福島縣石城郡平町

遠藤活版所

電話七四三番

中島寫眞館

平町字田町

よろこびございますか
うちりますますよ

